

看護学科卒業生 日本航空客室乗務員 岩鼻夏子さんにインタビュー 「看護師の知識が世界に羽ばたく鍵になる」

Q1 なぜ看護の道を目指しつつ客室乗務員を目指したのか

もともと人と直接関わる仕事が好きで看護学科に入学しました。その中で、世界とも関われる仕事に就きたいと思っていて、その選択肢にずっと客室乗務員（以下、CA）が心にありました。看護学科に入って、周りのみんなが看護師を目指しており自分も看護師になるんだろうなと思っていたけど、やっぱりCAになりたいという気持ちが捨てきれず、2年生の時に勇気を振り絞って自分の足でセミナーに行きました。そこで、看護師からCAになった方のお話を聞いてるうちに気持ちが固まったのかなと思います。

Q2 看護の知識や技術が現職に生かされること

学生のときは大学で勉強していることが社会に繋がるなんて思ってもみませんでしたが、働いてから実感することが沢山ありました。看護師の資格は幅が広くと思うので毎日が生かされていると感じます。機内の中で体調が悪くなるお客様が結構いて、そういう方の体調を経時的に見て、記録するのも私たちの仕事なのです。看護師の資格があるだけで頼りにされることも多いですし、学校で勉強した知識が生かされることも沢山あります。実習で患者さんとお話して、様々なアセスメントすると思うのですが、そういう経験が飛行機の中でお客様のちょっとした変化に気づく力に繋がりました。あとは、お客様の目線が一番近いCAが保安要員として安全を第一に考えて瞬時に判断できるか、そういう力が必要になってくるのも看護師に近いですね。

Q3 看護学生をしながらの就職活動において努力したこと

採用面接が5月で実習と被ってしまいましたが、実習と実習と間の休みを使って就職活動をしていて、実習で学んだことや看護を通して学んだ沢山の材料をいかにアピールするかを大切にしました。エアラインスクールには3年後期から通い、週に1回実習の後に行っていました。そこでエントリーシートの添削や面接の練習をしてもらいました。スクールに行っていない方もいましたが、やはり何も知らずに受けるのは不安だったので通いましたね。看護学科では（航空会社に）就活をする環境が周りになかったので勇気をもって色々なセミナーに行って情報を集めました。

Q4 客室乗務員に求められる専門的能力とは

より良いサービスをするにはやっぱり英語はできたら良いけれどそれだけで評価されることはないですし、お客様とのコミュニケーションの中で一番大切なのは一人一人の方に丁寧に接する気持ちや明るい笑顔だと思います。お客様は感じ方が違うからこそ、一人一人の表情や態度の些細な変化を汲み取ってその人のニーズに合わせたちょっとした気持ちや思いやりが大切なんだと思います。そのためには一人で仕事をするのではなく、チームで情報共有を行い、全てのお客様が笑顔で飛行機を降りていただけるようなサービスをいつも心がけています。

Q5 航空会社で働く女性としてのキャリアについて

体力さえあればずっと働ける環境なので、60歳でも飛行機に乗って最前線で働く方も居ます。それは女性が多い職場だからというのもあり、バックアップ体制が整っているからだと思います。CAだけでなく地上勤務や機内食の開発に携わることもでき、様々なキャリアがあります。自分の思い描く道に向かっていくことを周りが応援してくれるからこそ、自分のやりたいと思ったことはチャレンジできる環境にあると思います。大変だけれど、とてもやりがいを感じるし女性が働きやすい会社です。自分もそういう会社にしていきたいなって思えるくらい素晴らしい先輩方が沢山いて、生まれ変わってもこの仕事選ぶんだろうなって思いますね。

Q6 最後に伝えたいこと

航空会社に勤務する方のイメージですが、みんな留学経験があつてと思われるかもしれませんが、皆がそうではありません。先生だった方や銀行員だった方など様々な経験のある方がいるところです。そのように色々な背景を持った方がいたほうが良いサービスができると思うんです。なので、留学してないのに、看護学生なのに、と引け目は感じる必要は全くなく逆に強みだと思います。看護師になるための大学だけど、全然それ以外の選択肢もあるし、それを応援してくださる先生方に囲まれて良い環境にいたということを今になって感じます。今振り返ってみると看護学科で学ぶことで、実習や人との関わり方など普通できない経験や学びがこの大学4年間にはあります。それは、社会に出てすべてに精通していることだと思うので、皆さんには自信をもっていろんなことにチャレンジしてほしいです！



<左：機内にて、右：ハワイ州コナ空港にて>



<インタビューの様子>